

## ヨーロッパにおける GLOBALG.A.P.普及要因の解明 —イタリア、フランス2か国調査を通して—

農研機構北海道農業研究センター 田口 光弘・若林 勝史

### 1. はじめに

食品安全・労働安全・環境保全に対する取り組みとして GAP (Good Agricultural Practice、農業生産工程管理) の普及が進められている。GAPにはさまざまな種類のものが存在するが、国際的に代表的なものとしては GLOBALG.A.P.が挙げられる。GLOBALG.A.P.の Annual Report 2012 年版によれば、全世界合計で認証取得生産者数は 123,115 名であり、その 74%はヨーロッパの農業者であるが、ヨーロッパ諸国の中でも認証取得生産者が多い国(スペイン 29,853、イタリア 18,792 など)と、少ない国(イギリス 46、フランス 3,415 など)があり、ばらつきが見られる。

本研究では、ヨーロッパにおいて GLOBALG.A.P.の認証取得生産者数が多い国としてイタリアを、少ない国としてフランスを選び、これら両国で、農業者、流通業者、および政府機関へ聞き取り調査を実施して、認証取得生産者数の差が生じている要因を解析することで、ヨーロッパにおける GLOBALG.A.P.の普及要因の解明を試みる。

### 2. 調査先の選定

まず、GLOBALG.A.P.認証取得生産者および GLOBALG.A.P.認証農場と取引関係にある流通業者への調査については、GLOBALG.A.P.事務局から紹介を受けた各国の National Technical Working Groups (NTWGs) に、調査先の紹介依頼を行った。次に、行政機関への調査については、在外日本大使館を通じて調査依頼を行った。

この結果、実際に聞き取り調査を実施できた訪問先は、次のとおりである。認証取得生産者については、イタリアの生産者団体 Patfrut、および

フランスの生産者団体 Terres de Saint-Malo であり、GLOBALG.A.P.認証農場と取引関係にある流通業者については、フランスの仲卸業者 Jean L'Hour 社である。一方、政府機関については、イタリア農林政策省である。

### 3. 調査結果

#### 1) イタリアの生産者団体 Patfrut

Patfrut は、エミリア＝ロマーニャ州フェラーラ県に位置し、組合員数が約 1000 戸の生産者団体である。組合員の 99%は家族経営で、経営主の平均年齢は 55 歳である。

品目別の栽培面積は、全体で洋ナシ 1,100ha、リンゴ 250ha、馬鈴しょ 600ha、加工トマト 400ha、タマネギ 160ha などである。組合員の平均栽培面積は 4ha で、約 400 戸がリンゴと洋ナシを栽培しており、そのうち西洋ナシで 80 戸 (545ha) が、リンゴで 49 戸 (143ha) が GLOBALG.A.P.の認証(団体)を取得している。

Patfrut の農産物の販売先は、国内流通業者 40%、国内加工業者 20%、輸出 40%である。主要な輸出先は、北欧を中心に展開する KESKO、ドイツの EDEKA、イギリスの TESCO といった量販店である。これら輸出先との取引においては、GLOBALG.A.P.認証取得は義務となっている。

Patfrut における GLOBALG.A.P.の認証取得は 2004 年が最初であり、25 戸で団体認証を取得した。認証取得の必要性について、当初多くの組合員は納得していなかったが、何度も会合を開き、さらに栽培規模の大きい組合員を重点的に説得した結果、組合員の理解を得ることができた。

GLOBALG.A.P.認証取得によるメリットは、ドイツやイギリス等にある量販店と取引できることであり、こうした量販店は安定した大口の販売先

である。また、作業が標準化されて、合理化される可能性はあり、作業の標準化は、同時に後継者育成にも寄与すると考えられる。

一方で、認証取得・維持は、時間も投資も必要で、組合員の負担になっている。また、GLOBALG.A.P.は3年ごとにバージョンが更新されるが、そのたびに新しいことが盛り込まれ、その対応が難しい上に、流通業者主導で作った基準であるため、農業者に必要ないこともしなければならぬことが認証によるデメリットといえる。

## 2) フランスの生産者団体 Terres de Saint-Malo

Terres de Saint-Malo は、フランス・ブルターニュ地方に位置する生産者団体である。所属する生産者は90名で、そのうちGLOBALG.A.P.認証(団体認証)を受けているのが50名である。

Terres de Saint-Malo は、他の生産者組織6組織とともに、Cerafel という組織連合を形成している。Cerafel に属する生産者は2,350名で、Cerafel の3組織でGLOBALG.A.P.の団体認証を取得しており、個別認証も合わせれば、Cerafel 全体で528名がGLOBALG.A.P.の認証を受けている。

Terres de Saint-Malo の主要な栽培品目は、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーなどである。Terres de Saint-Malo の中核的な生産者であるPhilippe氏は、作付面積延べ74haで、カリフラワー27ha、西洋ネギ6ha、玉ねぎ1.5ha、馬鈴しょ13ha、大麦・小麦15haなどを栽培している。Terres de Saint-Malo 生産物は、Cerafel の他の6組織の生産物と一緒に、Prince de Bretagne というブランド名で出荷される。Prince de Bretagne の農産物を売買するための競り市がブルターニュ地方に3か所あり、そこでは電子取引により、1つの商品を同時に現物を見ずに3か所で競りにかける。

競り市に参加して野菜を購入する業者は約50社(今回調査したJean L'Houré社もそのうちの1社)で、その50社はスーパーマーケットなどの量販店、卸売業者、輸出業者などに販売している。

Philippe氏によれば、GLOBALG.A.P.の認証取得の準備を始めたのは2000年ころである。認証

取得のきっかけは、最初にフランスの加工食品製造業者から認証取得の要求があり、その後でイギリスやドイツの量販店から認証取得の要求があったからである。

GLOBALG.A.P.の認証取得によるメリットとして、Philippe氏は、農薬の使い方に対する認識が高まったこと、そして農場内の整備やルール作りをすることで、次世代への経営継承が容易になることを挙げている。また、市場の傾向として、GLOBALG.A.P.認証取得に対する要求は高まるものと思われ、次の世代に経営を受け渡す際には、GLOBALG.A.P.認証がないと先の見通しは明るくないと感じている。

## 4. おわりに

以上より、GLOBALG.A.P.の認証取得は、ドイツやイギリス、北欧等に位置する大手量販店との取引要件であり、こうした量販店に農産物を販売する農業者は、立地する国にかかわらずGLOBALG.A.P.認証を取らざるを得ない。したがって、ヨーロッパ内で、国により認証取得生産者に関与が生じている要因は、こうした大手量販店に販売している農業者数の多寡に依存していると考えられる。

農林水産省の試算によれば、ヨーロッパ諸国における品目別自給率(2009年)は、ドイツやイギリスでは野菜類がともに43%であり、果実類はそれぞれ32%、5%である。一方で認証取得生産者の多いイタリアやスペインでは、野菜類がそれぞれ128%、152%で、果実類に関しては107%、153%である。なお、フランスは野菜類が72%で、果実類は62%である。

これらよりドイツやイギリスは青果物を他国から輸入する必要がある一方で、イタリアやスペインは他国へ青果物を輸出する必要がある。こうした貿易構造のために、ドイツやイギリスへ青果物を輸出するイタリアやスペインでは、GLOBALG.A.P.認証取得生産者が多いことが分かる。